

単元を貫く言語活動を位置づけた学習指導の試み ～説明文教材「いろいろなふね」「虫は道具をもっている」 「どうやってみをまもるのかな」～

橋 中 真紀子

Ⅰ. はじめに

小学校では、平成23年4月から新しい学習指導要領が全面実施された。その新学習指導要領では言語活動の充実が重視されている。これまでも国語科では、読んだり、書いたり、話したり、聞いたりする活動を中心とした学習が行われているはずなのに、なぜとりたてて言語活動の充実が重要視されるようになったのだろうか。その背景には、次のようなことが関係している。①変化に対応する能力の育成。②思考力、判断力、表現力などに課題。③教育基本法改正、学校教育法改正。このような背景から、新学習指導要領では「言語活動を充実すること」が求められているのである。

各教科等の目標を実現するために、それぞれの教科、領域等で言語活動の充実を図り、国語科がその基盤を担うことになる。H20年中央教育審議会答申では、「国語科では、基本的な国語の力を定着させたり、言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培うことをねらう。」と明記されている¹⁾。では、国語科の授業において、言語活動の充実を図るにはどのような工夫がいるのだろうか。

文科省教科調査官の水戸部修治氏は、言語活動の充実を図る国語科授業づくりのポイントについて次の3つを挙げている²⁾。①単元の構想に当たっては、児童自身にとっての学習の過程を明確にし、単元を貫いて言語活動を位置づける。②つけたい国語の能力を育成するのにふさわしい言語活動を選択して位置づける。③自分の『大好き』『お気に入り』を意識できるような言語活動であればある程、国語科の指導のねらいを十分に実現することにつながる。

そこで、水戸部氏が提案している言語活動の充実を図る3つのポイントを単元構想時に意識しながら、実践化を試みた。本稿では、3つのポイントを意識した説明文授業を3つ紹介する。

II. 実践の概要

ここでは、水戸部氏が提案している言語活動の充実を図る3つのポイントに沿って、3つの実践について概要を述べる。

1. ポイント①単元を貫く言語活動

【教材名】	【単元を貫く言語活動】
(1) 1年「いろいろなふね」	乗り物図鑑作り
(2) 2年「虫は道具をもっている」	虫のひみつ図鑑作り
(3) 1年「どうやってみをまもるのかな」	動物ひみつクイズ作り

単元を貫く言語活動を位置づけた実践として、第1学年「いろいろなふね」（東京書籍1年下）平成22年10月実施、第2学年「虫は道具をもっている」（東京書籍2年下）平成23年10月実施、第1学年「どうやってみをまもるのかな」（東京書籍1年上）平成24年6月実施の3例を挙げる。なお、「いろいろなふね」の実践は、前任校（江津市立郷田小学校）で実施し、その一部を江津市教育研究大会で授業公開したものである。「虫は道具をもっている」の実践は、前任校（江津市立郷田小学校）で実施し、島根県国語教育研究大会で授業公開したものである。「どうやってみをまもるのかな」の実践は、現任教（鳥取市立宝木小学校）で実施したものである。

それぞれ、単元を貫く言語活動として「乗り物図鑑作り」「虫の図鑑作り」「動物ひみつクイズ作り」を位置づけた。

2. ポイント②つきたい力にぴったりの言語活動の選択

それぞれの単元で取り上げる指導事項に合わせて選択した言語活動を紹介する。

(1) いろいろなふね

指導事項

- | | |
|------|---------------------------------|
| 1・2年 | C読むこと |
| イ | 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を読むこと |
| エ | 文章の中の大事な言葉や、文章を書き抜くこと |



言語活動

- 1・2年 C読むこと
- ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと

(2) 虫は道具をもっている

指導事項

- 1・2年 C読むこと
- イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を読むこと
- エ 文章の中の大事な言葉や、文を書き抜くこと
- 1・2年 B書くこと
- ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること
- ウ 語と語や文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと



言語活動

- 1・2年 C読むこと
- ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと
- 1・2年 B書くこと
- エ 紹介したことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること

(3) どうやってみをまもるのかな

指導事項

- 1・2年 C読むこと
- イ 時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を読むこと
- ウ 文章の中の大事な言葉や、文を書き抜くこと



言語活動

- 1・2年 C読むこと
- ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと

3. ポイント③自分の「大好き」、「お気に入り」を生かす

それぞれの単元で、自分の「大好き」「お気に入り」を生かした活動を紹介する。

(1) いろいろなふね

自分の好きな乗り物を選んで「乗り物図鑑」を作る。

(2) 虫は道具をもっている

自分の好きな虫を選んで「虫のひみつ図鑑」を作る。

(3) どうやってみをまもるのかな

自分の好きな動物を選んで「動物ひみつクイズ」を作る。

Ⅲ. 実践

1. いろいろなふね

(1) 単元名 「ぼく・わたしはのりものはかせ！」

(2) 単元の目標

- いろいろな乗り物に興味をもち、進んで乗り物について書かれた本を読んだり、図鑑を作ったりしようとする。 (国語への関心・意欲・態度)
- 写真と本文を結び付けて、書かれている順序に気付きながら、書かれた事柄を正しく読み取ることができる。 (読むこと)
- 新出漢字や新出片仮名を正しく読み書きしたり、長音、拗音、促音、撥音や助詞の「は」「へ」「を」を正しく使って、乗り物紹介カードを書いたりすることができる。 (言語についての知識・理解・技能)

(3) 単元について

本教材は、4つの特徴的な機能をもった船が例として取り上げられており、それぞれの船の役目を構造や装備と関連付けながら、楽しく読み進めることができる説明的な文章になっている。また、14の文から成り、話題提示の段落、4つの例示、話題提示に対するまとめを述べている段落というように、分かりやすい文章構成になっている。4つの例のそれぞれは、「役目」「つくり」「使い方」の順序で書かれているため、書き方を比較しながら読むことができ、説明文としての基本的な構成を理解させることに適している。

本単元では、この教材で学んだ文型をいかし、自分の好きな乗り物について必要な情報を図鑑や他の本から見つけ、「のりもの図鑑」を作るという言語活動を位置づけた。読み取りの段階では、PISA型読解力を高めることを意識しながら、「連続型テキスト」としての本文、「非連続型テキスト」としての写真を読むことを取り入れた。そして、「いろいろなふね」の読み取りを行った後、乗り物の本の読書を行い、読書の幅を広げていった。教材文で学習したことを活用して、1人1冊の「のりもの図鑑」を作成し、学校や地域の図書館に置くことで、情報発信を行った。

(4) 単元の指導計画と評価計画 (全14時間)

学習過程	時間	学習活動	国語への 関心・意欲・態度	読むこと	言語についての 知識・理解・技能
つかむ	1	○教科書の写真や船について知っていることを話し合う。 ○全文を通読し、内容の大体をつかむ。 ○学習の見通しをもつ。 ～のりものはかせになつてのりものずかんをつくらう～	船について興味をもつて、教材文を読み、進んで学習に取り組もうとしている。 (発言・行動観察)	全文を読み船について、初めて知ったこと、もっと知りたいこと、思ったことを発表している。 (発言・ワークシート)	
読み取る・伝える	2	○キーワードに着目して「きゃくせん」の役目と工夫を読み取り、特徴をまとめる。		キーワードをもとに、客船の役目と工夫を写真と本文を結び付けて読み取る。 (発言・ワークシート)	新出漢字や新出片仮名の読み方を理解している。(行動観察)
	3	○キーワードに着目して「フェリーボート」の役目と工夫を読み取り、特徴をまとめる。		キーワードをもとに、フェリーボートの役目と工夫を写真と本文を結び付けて読み取る。 (発言・ワークシート)	新出漢字や新出片仮名の読み方を理解している。(行動観察)
	4	○説明の順序に気付きながら、「ぎよせん」の役目と工夫を読み取り、特徴をまとめる。		説明の順序を考えて本文を並べ、漁船の役目と工夫を読み取る。 (発言・ワークシート)	新出漢字や新出片仮名の読み方を理解している。(行動観察)
	5	○説明の順序に気付きながら、「しょうぼうてい」の役目と工夫を読み取り、特徴をまとめる。		説明の順序を考えて本文を並べ、消防艇の役目と工夫を読み取る。 (発言・ワークシート)	新出漢字や新出片仮名の読み方を理解している。(行動観察)
	6	○説明文の仕組みを知る。 (本時)		14の文を部屋に分け、内容に合った小部屋の名前を考えている。 (発言・ワークシート)	

見つめる	7	○学習を振り返って、分かったことやできたことを確かめる。 ○振り返りカードに感想を書く。	教材文の内容や船の説明の仕方について振り返り、分かったことを乗り物図鑑作りで生かそうとする。 (発言・ワークシート)	4つの船がそれぞれの役目に合うように作られていることを読み取る。 (発言・ワークシート)	基本的な文型を理解している。 (ワークシート)
生かす	8	○乗り物図鑑の作り方について知る。 ○「消防車」の特徴を生かし、「消防車」の説明文を書く。	乗り物図鑑作りについて、興味をもち、「消防車」の説明文を書こうとしている。 (発言・観察)	消防車の特徴を基本的な文型に沿って書いている。 (ワークシート)	
	9 ・ 10 ・ 11	○好きな乗り物を選び、本を読んで調べる。	好きな乗り物を選び、本をすすんで読もうとしている。 (行動観察)	自分の選んだ乗り物について役目や工夫に着目して読んでいる。 (行動観察)	
	12 ・ 13	○自分の調べた乗り物について説明文の仕組みに基づいて、まとめる。	好きな乗り物について、すすんで説明文を書こうとしている。 (ワークシート・観察)	選んだ本の中から必要なことを選び、学んだ文型を用いて、自分の好きな乗り物について説明文を書いている。 (ワークシート)	長音、拗音、促音、撥音や助詞の「は」「へ」「を」を正しく使って、乗り物について説明文を書く。 (ワークシート・行動観察)
	14	○友達によかったところや初めて知ってうれしかったことなどを伝える。	友達の乗り物図鑑を読んで、よさを見つけようとしている。 (行動観察)		

(5) 学習指導の実際

ア. 学習過程の明確化

これまで何度か実践してきた説明文「いろいろなふね」で学習したことを生かして作る「乗り物図鑑」では、児童は本文の形式を真似して「乗り物図鑑」の中身を書いてはいたが、つながりが意識されていないものがあった。以下に示すのは、児童が書いたつながりが意識されていない「乗り物図鑑」の一部である。

①タクシーは、人をはこぶための車です。②このタクシーの中には、ハンドルがあります。③人は、ハンドルでうんてんします。

上記の作文は、「いろいろなふね」に書かれている船の説明の仕方を学習し、その説明の仕方の順序に沿ってきちんと書かれている。①は役目、②は仕組み、③は使い方について書かれており、「～ためのくるまです」「この中には～がありま

す」「人は～」といったキーワードも確保されている。しかし、3文のつながりが全く意識されていない作文となっている。1つ1つの文は学習したことをもとに正確に書いてはいるが、肝心の「タクシーの役目にあつたつくり」が抜けている作文である。このような、本文の形式のみを真似して書いた「乗り物図鑑」ではなく、つながりを意識した「乗り物図鑑」を書くことができるように、以下のような取組を行った。

<意欲の醸成>

本単元に入る前に、家庭にある「乗り物」のおもちゃを持たせてもらうことで教室に「乗り物コーナー」を設置し、児童が乗り物に興味・関心を高めることができるような環境を整えた。また、学校司書や地域の図書館との連携を図りながら、教室に乗り物に関する図書を数多く置き、「乗り物図鑑コーナー」を設定した。



【乗り物おもちゃコーナー】



【乗り物図鑑コーナー】

<つかむ>

本単元に入ってからは、児童が見通しをもって学習することができるように、右記にあるような学習計画を立て、児童がいつでも確認できる場所に掲示した。

<読み取る、伝え合う>

教材文を「読み取る」段階では、「いろいろなふね」の全文視写を行ったり、説明文の情報の取り出しの時、本文及び写真から分かる部分にサイドラインを引いたり、自分の言葉で説明したりすることができるワークシート



【教室に掲示した学習計画】

を用いて一人読みを行った。また、4つの船の説明の仕方に着目させ、どの船も「役目」「仕組み」「使い方」の順序で述べられていることに気付かせた。そして、本時では14文の並べかえの後に、本文はいくつの「大部屋」からなるかを考えることで、説明文の基本構成の学習を行った。さらに、「説明の大部屋」は、いくつかの「小部屋」からなるかを考えた後、それぞれの「小部屋」に名前を付けた。このようにしたことで、児童は「いろいろなふね」の基本構成（序論、本論、結論）を学んだ。

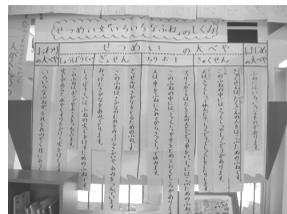
<生かす>

「乗り物図鑑」を作成する方法として、1人が1種類の乗り物について調べ、説明の小部屋にあたる「乗り物図鑑」の一部を作成し、それらを集めて学級全員で1冊の「乗り物図鑑」を作成する方法がある。しかし、本単元では、児童1人が序論、本論、結論からなる「乗り物図鑑」を作成することにねらいをおき、学級人数分の「乗り物図鑑」が完成できる方法をとった。児童が、「いろいろなふね」の基本構成（序論、本論、結論）を生かして「乗り物図鑑」を作ることをねらって、上記の資料と同じワークシートを用いて、並べかえた14文を「はじめの大部屋」「説明の大部屋」「おわりの大部屋」に分けた。そして、「説明の大部屋」は、さらに小部屋に分けられることを確認し、4つの小部屋に名前をつけていくことで、説明文の基本構成を意識させた。このように、説明文の全体を1年生なりにつかませることで、次につくる「乗り物図鑑」の見通しをもたせるようにした。

作成した「乗り物図鑑」は、友達と交換して読みあったり、保護者の方に読んでもらったりした。その後、学習したことを発信するために江津市図書館に「乗り物図鑑」を置いて頂き、市民の方の感想を求めた。

イ. 14文の並べかえ

本時の「14文の並べかえ」では、一人読みの時間を8分間（設定5分、追加3分）とり、机上で短冊を操作しながら、自分の考えをワークシートにまとめた。児童は、文の並べかえについて、物語文「サラダでげんき」の学習で経験しているのでも、並べかえの手順が分からない児童はいなかった。下記の資料は、14文の並べ替えで児童が用いたワークシートである。なお、1文ごとに短冊になっており、児童が自由に並べかえができるようになっている。



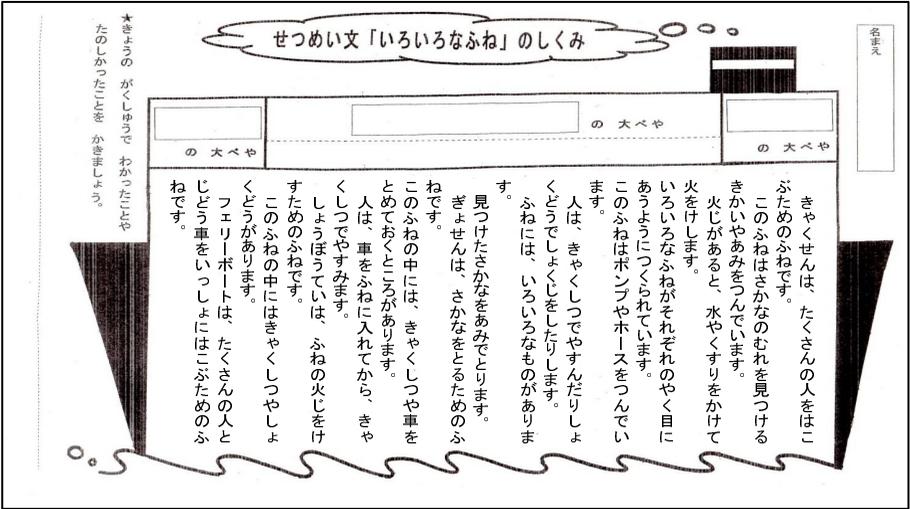
【説明文の仕組みの資料】



【江津市図書館に設置した図鑑】



【一人読みの様子】



一人読みの後、14文の順序について理由をつけながら、全体で話し合いを行ったところ、以下のような児童の発言が見られた。

T 1 : わけがいえる？

C 1 : 覚えているからです。

T 2 : C 1 さん、覚えてたんだね。すごいね。覚えているけど、本当にそうかは分からんねえ・・・

C 2 : 最初に舟の名前がないと何の船の名前かわかりません。

C 3 : 役目が書いてあります。「たくさんの人をのせるためのふねです」

(別の文の並べかえの理由を述べる場面)

C 4 : 名前の次は、役目がきて、仕組みがくるからです。

C 5 : 仕組みの次は、使い方です。わけは、次のフェリーボートも最後が使い方、仕組みが全部真ん中にきています。

C 6 : (拍手)

T 3 :すごい。博士みたいだったね。これが大ヒントだね。名前があつて、役目がきて、仕組みがきて、使い方。このやり方だと、どんどんできそうだね。

(最後の文の並べかえの理由を述べる場面)

T 4 : 何で、これが最後か言える？

C 7 : だって、これが最初だったら、まだ何も船の名前とか船の役目が書いてないのに、もう終わっています。

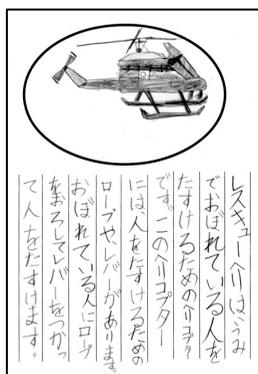
C 8 : これは、全部の船をまとめているから。

C 9 : だって、これがここ(消防艇の説明の前)だったら、わからなくなるからです。

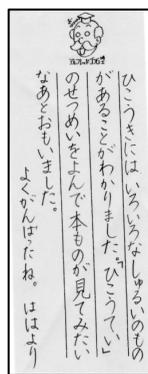
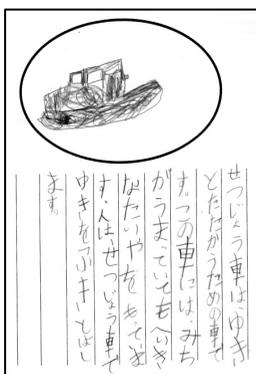
上記のように、14文の並べかえの話し合いでは、C 2、C 3、C 4、C 5のよう

に理由も明確にしながら発言をしており、それらの理由を受けてその後の文の並べかえもスムーズに行うことができた。14文を並べかえるだけでなく、理由も合わせて考えることで、C5の発言に見られるような4つの船がどれも「役目」「仕組み」「使い方」の順序で説明されていることに改めて気づくことができた。C5の発言を受け、T3にもあるように、教師がその気づきを全体に広げていった。また、最後の文（結論）の並べかえの理由を考える時に、C8の発言に見られるように、全部の船をまとめているからという考えも出され、文章全体の構造に目を向ける発言を引き出すことができた。

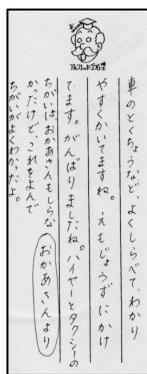
以上のように、一人読みの段階で14文の並べかえを行った後、理由をつけながら話し合いを行うことは、文のつながりや文章全体の構造に目を向けさせるためには有効であったといえる。しかし、これだけでは、説明文の仕組みを理解させるには至っていない。本時では、14文の並べかえの後、「大部屋」「小部屋」等の用語を提示して、教師と共に部屋分けを行った。14文の並べかえ後に部屋分けをすることが、説明文の仕組みを理解させるためには、有効であったと考える。



【児童が書いた乗り物図鑑】



【保護者が書いた感想カード】



上記は、児童が書いた「乗り物図鑑」の一部である。「いろいろなふね」で読み取った「役目」「仕組み」「使い方」の説明の順序に沿って書いており、文のつながりも意識されている。本単元では、全員の児童が上記のように「役目」「仕組み」「使い方」の順に乗り物の説明を書くことができた。また、「乗り物図鑑」の説明の小部屋には多い児童では、6種類の乗り物を記述した「乗り物図鑑」を完成させることができた。

以上のことから、図鑑作りの前に説明文の14文の並べかえを位置付けたことは、図鑑作りにつながる学習として有効であったといえる。

(6) 実践を振り返って

- 本単元では、説明文「いろいろなふね」で学習したことをもとに1人1冊の「乗り物図鑑」を作成することをねらって、単元を構成した。「読みとる」段階で、14文の並びかえを行ったり、「大部屋」「小部屋」に分けたりしたことは、説明文の仕組みを理解させるために有効であることが実践を通して見えてきた。また、児童が作った「のりもの図鑑」からも、説明文の仕組みや説明の仕方(①役目、②仕組み、③使いかた)の順序を理解して、記述していることが分かる。さらに、説明文の形式のみを真似した「乗り物図鑑」ではなく、3文(①役目、②仕組み、③使いかた)のつながりを意識した「乗り物図鑑」を作成していることも分かる。このことは、説明文の情報を読むことだけに終始せず、説明文の仕組みを理解させることをねらった授業を取り入れたことによるものだと考える。
- 以下は、本単元の中での児童の振り返りの一部である。単元の学習を通して、児童が自己の成長を感じ、学習への満足感や達成感を抱くことができたことがうかがえる。今後もこのような学習を積み重ねていくことで、国語の学習の楽しさを味わわせ、学び合う集団を育てていきたい。

児童の学習後の振り返り

- ★本をつくるのにじぶんだってしらないことがわかったからよかったです。わかったことは、ふねだけでなく、いろいろなものがやくめにあうようにつくられていたことです。～中略～もっといろいろなことをいっばいして、本をたくさんつくりたいです。
- ★ずかんがつくれてよかったです。やくめやしくみやつかいかたがいっばいわかってよかったです。やくめやしくみやつかいかたが1ねんせいになってからすぐに来たからびっくりしました。いっばいできて、すごかったとおもいました。たくさんの人にみてもらおうからうれしいです。

2. 虫は道具をもっている

(1) 単元名 「くらべて 読んで 虫のひみつ大発見!!」

(2) 単元目標

- 自分の知りたいことについて説明した本や文章を進んで読もうとしたり、自分の伝えたいことが伝わるように紹介文を書こうとしたりしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- 文章の中の大事な言葉や文を書き抜いたり、事柄の順序や文章表現上の順序などを考えたりしながら、内容の大体を読むことができる。
(読む能力)
- 書こうとする題材に必要な事柄を集め、つながりのある文や文章を書くことができる。

(書く能力)

- 新出漢字や文の中における主語と述語との関係に注意して文や文章を読んだり書いたりすることができる。

(言語についての知識・理解・技能)

(3) 単元について

本教材は、3つの「問い」と「答え」、対比の構成を用いて、虫の体のつくりへの驚きや発見が述べられている。人間が道具を使わなければならないことを、体の形やはたらきによってやってのける、虫の生まれもった能力のすばらしさや不思議さに気づくことのできる教材である。

本単元では、説明文「虫は道具をもっている」の情報を読み取るだけではなく、説明の仕方の工夫や筆者の思いや考えを読み取る活動を取り入れた。筆者の伝えたいことや思いは、児童の「図鑑を作る理由」として形を変えながら継承されていくと考えたからである。教材文の読み取りを行った後、自分の好きな虫について必要な情報を図鑑や他の本から取り出し、本教材で学んだ対比の構成を生かして紹介文を書いた。

その際、教材文の読解で得た視点「虫の体のつくり」「はたらき」に注目させ、自分の身の回りにある道具で似ているものがないかを考えさせてから、教材文の述べ方を真似てまとめさせた。それぞれが書いた紹介文は、「虫のひみつ図鑑」としてまとめ、交流をした後、学校や地域の図書館に置くことで情報発信を行った。

(4) 単元の指導計画と評価計画 (全13時間)

次	時	目 標	主な学習活動	評 価				
				国語	書く	読む	言語	評価規準 【評価方法】
1次 (つかむ)	1	「虫」や「道具」について知っていることやイメージしたことを話し合った後、教材文を通読する。	①「虫」や「道具」について知っていることやイメージしたことを話し合う。 ②教材文を通読し、内容の大体をつかむ。 ③教材文の新出漢字を確認する。	○			○	(国)「虫」や「道具」について知っていることをすすんで発表している。【発言】 (言)新出漢字を読んだり、書いたりしている。【行動観察・ノート】
	2	教材文の感想を交流し、前時での学習を生かして学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">並行読書</div> 	①初めて知ったことや驚いたこと、これから学習していきたいことをカードに書き、感想を交流する。 ②これまでの学習を生かして学習計画を立て	○		○	(読)教材文を読み、初めて知ったことや驚いたことについて感想を書いている。【ワークシート】 (国)教材文に興味をもち、感想をもとにし	

		<p>朝活動や、課外で、自分の興味をもっている虫について本や図鑑等の並行読書を行う。</p>	<p>る。</p> <p>虫のすごさが伝わる「虫のひみつ図鑑」を作ろう</p>				<p>てこれからの学習計画を立てようとしている。【発言】</p>
<p>3次 読み取る・伝える</p>	3	<p>筆者のカミキリムシに対する考え（第1～3段落）を読み取り、カミキリムシの大あごとドリルが対比されていることをつかむ。</p>	<p>①カミキリムシがもっている道具について考える。</p> <p>②カミキリムシのもつ道具について、分かったことや思ったことをまとめる。</p>			○	<p>（読）叙述をもとに、カミキリムシの大あごとドリルが比べられていることを読み取っている。【発言・ワークシート】</p>
	4	<p>虫の体と人間の道具が対比されていること（第4～7段落）を読み取り、対比表現を通して筆者の伝えたかったことや思いを考える。（本時）</p>	<p>①文を並べかえ、写真や挿絵と本文を結び付ける。</p> <p>②並べかえた理由や並べかえて気付いたことを話し合う。</p> <p>③読み取ったことをまとめ、筆者の伝えたかったことや思いを考える。</p>			○	<p>（読）虫の体と人間の道具が対比されていることから、筆者の伝えたかったことや思いを考えている。【発言・ワークシート】</p>
	5	<p>人間が発明していない道具を体にもっている虫についての筆者の考え（第8～9段落）を読み取る。</p>	<p>①第8～9段落を読み取り、人間が発明していない道具を体にもっている虫について考える。</p> <p>②虫の体と人間の道具が対比されていないことから筆者の伝えたかったことや思いを考える。</p>			○	<p>（読）人間がまだ発明していない道具とはどんなものかを考えながら、アメンボなどの虫にできることについて読み取っている。【発言・ワークシート】</p>
	6	<p>虫たちの生き方をとらえ、筆者の考える虫たちが道具をもつようになったわけ（第10～11段落）について考える。</p>	<p>①それぞれの虫がどこでくらしているか考える。</p> <p>②人間のくらしと虫のくらしの違いを考える。</p> <p>③虫たちが道具をもつようになったわけをまと</p>			○	<p>（読）虫たちの生き方について知り、虫たちが道具をもつようになったわけを棲み分けとの関係から読みとっている。【発言・ワークシート】</p>

			める。					
	7	虫たちの生き方について人間と比べながら考え、自分の考えを交流する。	①虫の体を人間の道具と比べながら教材文を読む。 ②虫たちの生き方について自分が考えたことを書く。 ③考えたことを交流する。			○		(読) 虫たちの生き方について、人間の生き方との比較から考えている。【発言・ワークシート】
3次 (みつめる)	8	学習したことを振り返り、読み取ってきたことをもとに、「虫のひみつ図鑑」をつくることを確認する。	①学習したことを振り返り、分かったことやできたことを確かめる。 ②教材文から自分の表現に生かしたい書きぶりをみつける。 ③振り返りカードに感想を書く。	○				(国) 学習したことを振り返り、自分の学びや成長に気付き、次の活動への意欲をもつ。 【ワークシート・行動観察】
4次 (生かす)	9	並行読書で選んだ本や図鑑を学習した視点でもう一度読む。	①これまでに並行読書を進めてきた本や図鑑から、自分の知りたい虫について書かれた本や文章を選び、学習した視点でもう一度読む。 ②「虫のひみつ図鑑」にのせたい「虫の体のつくり」や「はたらき」を調べる。	○	○			(国) 自分の知りたい虫について説明した本や文章をすすんで読もうとしている。【行動観察】 (書) 自分の説明したい虫について書かれた本や文章から「虫の体のつくり」や「はたらき」をみつけている。 【行動観察】
	10	「虫のひみつ図鑑」にまとめるために必要な情報を本や図鑑から取り出す。	①「虫のひみつ図鑑」にまとめるために「虫の体のつくり」や「はたらき」を本や図鑑から取り出す。			○	○	(読) 虫について書かれた本や図鑑から必要な情報を探し、メモをしている。 【行動観察・メモ】 (言) 文の中の主語と述語に注意して読んでいる。【行動観察・ワークシート振り返り】
	11 12	「虫の体のつくり」や「はたらき」を身の回りにある「道具」で似ているものにたとえ、「虫の	①「虫の体のつくり」や「はたらき」と似ている「道具」を考える。 ②虫の体と人間の道具の			○		(書) 説明したい虫の特徴を人間と比べる表現を用いて、「虫のひみつ図鑑」をつくって

	ひみつ図鑑」を完成させる。	対比をカードにまとめる。 ③絵と文章で「虫の体のひみつ」についてカードにまとめる。				いる。 【カード】
13	「虫のひみつ図鑑」を読み合い、感想を交流したり、虫について分かったことや考えたことをまとめる。	①「虫のひみつ図鑑」を読み合う。 ②感想を交流する。 ③虫について分かったことや考えたことをまとめる。	○			(国) 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合っている。 【発言・行動観察】

(5) 学習指導の実際

ア. 学習過程の明確化

本単元では、「虫のひみつ図鑑」作りを単元を貫く言語活動に設定し、児童とともに学習計画を立て、学習の見通しがもてるようにした。また、図鑑作りの前に、本単元で学んだことをまとめたり、自己の成長を自覚できるような時間を設定したりした。本単元では、以下のような取組を行った。

<意欲の醸成>

生活科「生き物大好き」との合科的扱いができるように、教材の配列を入れかえた。そして、いろいろな虫に対する興味・関心を喚起することができるような環境を整えた。また、学校司書や地域の図書館との連携を図りながら、教室に虫に関する図書を数多く置き、「虫の本コーナー」を設定した。そして「マイブック入れ」を使用することで、児童がすぐに並行読書の本を手にとれるようにした。「マイブック入れ」には、並行読書カードを入れて本の題名、著者等を記録できるようにした。



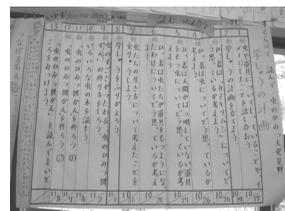
【並行読書で使ったマイブック入れ】

<つかむ>

本単元に入ってからは、児童が見通しをもって学習することができるように、学習計画を立て、児童がいつでも確認できる場所に掲示した。

<読み取る、伝え合う>

教材文を「読み取る」段階では、「虫は道具をもっている」の全文視写を行ったり、説明文の情報の取り出しの時、本文及び写真から分かる部分にサイドラインを引



【教室に掲示した学習計画】

いたり、自分の言葉で説明したりすることができるワークシートを用いて一人読みを行った。本時では8文の並べかえを通して、対比表現を学んだ。

<生かす>

昨年度、児童は1人1冊ずつ「乗り物図鑑」を完成させたという満足感をもっており、本単元に入った時から1人1冊ずつ図鑑を作りたいという願いをもっていた。



【江津市図書館に設置した図鑑】

そこで、児童一人一人が虫の体と人間の道具を対比するという説明の仕方を使って「虫のひみつ図鑑」を作成した。児童は、事象を対比することで、より分かりやすく伝えることができるということを「図鑑作り」の体験を通して学んだ。作成した「虫のひみつ図鑑」は、友達と交換して読みあったり、保護者の方に読んでもらったりした。その後、学習したことを発信するために江津市図書館に「虫のひみつ図鑑」を置いて頂き、市民の方の感想を求めた。

イ. 8文の並べかえ

本教材は、対比の構成を用いて虫の体のつくりへの驚きや発見を述べている。筆者は、そのような驚きや発見を読者にも感じてほしいという願いをもってこの文章を書いていると考えた。そこで、虫の体と人間の道具を比べて読むことを通して、事象を対比する述べ方のよさを生かし、「虫のひみつ図鑑」作りに取り組んだ。また、教材文を読み取る学習では、毎時間の終末に筆者の伝えたかったことや思いを考える時間を設定した。

本時では、説明文「虫は道具をもっている」の意味段落²の全文（8文）を並べかえることを通して、対比表現をつかませ、筆者の伝えたかったことや思いを考えさせることを組み入れた。一人一人が、8文の並べかえに取り組んだ後で、全体的話し合いの中で、読みを深めた。

本時の「8文の並びかえ」では、一人読みの時間を8分間（設定5分、追加3分）とり、机上で短冊を操作しながら、自分の考えをワークシートにまとめた。児童は、文の並びかえについて、「いろいろなふね」（1年生）、「たんぼぼ」（2年生）の学習で経験しているので、並びかえの手順はきちんと理解していた。一人読みの後、8文の順序について理由をつけながら、全体で話し合いを行ったところ、以下のような児童の発言が見られた。



【一人読みの児童の様子】

<対比の表現>

(文の並べかえの理由を述べる場面で、教師のゆさぶり発問に対して)

T 1 : こっちも(ケラ) こっちも(カマキリ) 前足なら、こうなっているの(反対) ?

C 1 : ケラはほるけど、カマキリは生き物をつかまえるから、あみとかまがペアです。

C 2 : ケラは土にいるけど、カマキリは草むらにいます。

C 3 : つけたしです。棲む場所はカマキリだとえものを食べたりするから草むらで、ケラは土をほるから土です。カマキリはえものをつかまえるのに前足をつかって、ケラはほるのに使います。

C 4 : ケラは強い前足、カマキリはえものを捕まえるために使っています。ほる前足と、つかまえる前足。

T 2 : 同じ前足でも違うんだね。

C 5 : ~略~人間は、くまでを使って土をほる。土をほるなら、かまきりはえものをつかまえるのに土をほることになるから違います。

<筆者の伝えたかったことや思い>

(筆者の伝えたかったことや思いを吹き出しにまとめた後、発表する場面)

T 3 : さわぐちさんは、虫のことをどう思っているのかな?

C 6 : 虫の体と人間が使う道具は同じ役目になっている。

C 7 : 虫にはいろいろな種類の虫がいて、道具のある虫とそうでない虫がいる。

C 8 : 虫のことがもっと知りたい。

C 9 : 虫は強い道具をもっていた。虫にみたいになりたい。

C 10 : みんなにも虫が道具をもっていることを教えてあげたい。

C 11 : カミキリムシやケラ、カマキリとかいろいろな虫を書いてとても虫が好きなんだと思いました。

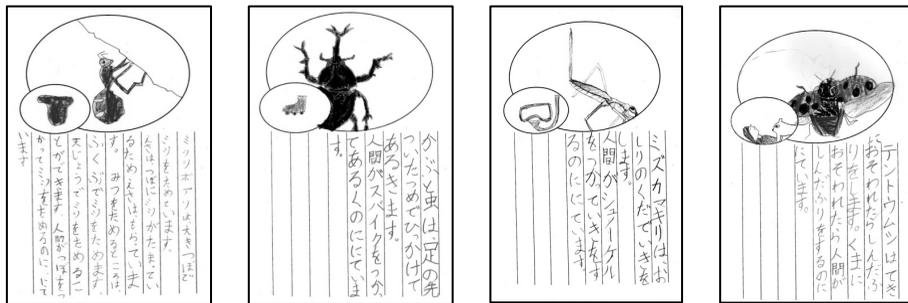
C 12 : ケラ、カマキリ、チョウの体のつくりやはたらきは、人間の道具と似ていて形が違うからすごい。

上記のように、8文の並べかえの話し合いでは、教師のゆさぶり発問に対してC 1、C 3、C 4、C 5のように理由を明確にしながら発言をしており、それらの発言を受けての話し合いでは、文と文の対比構成がより明確となり、文の並べかえもスムーズに行うことができた。8文を並べかえるだけではなく、理由も合わせて考えることで、C 4の発言に見られるような同じ前足でも役目が違うことに改めて気づくことができた。

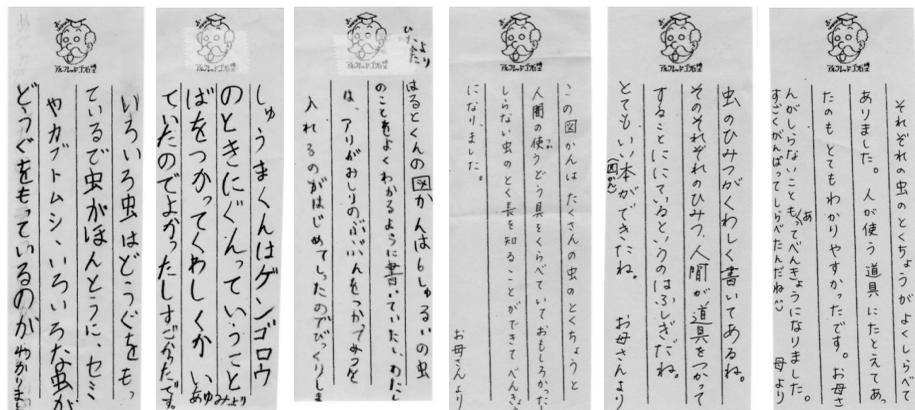
本時のまとめとなる筆者の伝えたかったことや思いを考える場面では、上記のC 6、C 7、C 8、C 12の発言に見られるように、筆者の立場からではなく、自分の立場からの感想を述べている。しかし、C 9、C 10、C 11の発言からは、筆者の立場に立とうとしていることがうかがえる。2年生の発達段階を考えると、立場や視点を変えることは難しかったと考えられ、筆者の立場になるような支援をしていく必要があった。本時で使用したワークシートは、さわぐちさんの写真を掲載し、吹

き出しの中に考えを記述できるようにしていた。この支援だけでは、立場の転換が難しかったため、吹き出しの中に、「私は・・・」等という書き出しの言葉を記述しておく必要があった。

以上のことから、一人読みの段階で8文の並べかえを行った後、理由をつけながら話し合いを行うことは、文のつながりや表現の仕方に目を向けさせるためには有効であったといえる。しかし、筆者の伝えなかったことや思いを考えることには至っていないと考える。2年生でも説明文の「読む」時間に筆者の思いを考えることを設定していくことで、今後の読みにつなげていくことができるようにしたい。



【児童が書いた虫のひみつ図鑑】



【児童や保護者が書いた感想カード】

上記は、児童が書いた「虫のひみつ図鑑」の一部である。「虫は道具をもっている」で読み取った対比表現を用いて書いており、文のつながりも意識されている。本単元では、全員の児童が上記のように対比表現を用いて虫の体の説明を書くことができた。また、多い児童では、10種類もの虫を記述した「虫のひみつ図鑑」を完

成させることができた。

以上のことから、図鑑作りの前に説明文の説明の仕方を学ぶ学習過程を位置付けたことは、図鑑作りにつながる学習として有効であったといえる。

(6) 実践を振り返って

- 本単元では、説明文「虫は道具をもっている」で学習したことをもとに一人一冊の「虫のひみつ図鑑」を作成することをねらって、単元を構成した。「読みとる」段階で、文の並びかえを行ったことは、対比表現に気付かせるために有効であることが実践を通して見えてきた。また、児童が作った「虫のひみつ図鑑」からも、対比表現を理解して、記述していることが分かる。このことは、説明文の情報を読むことだけに終始せず、説明文の表現の仕方を理解させることをねらった授業を取り入れたことによるものだと考える。
- 以下は、本単元の中での児童の振り返りの一部である。単元の学習を通して、児童が自己の成長を感じ、学習への満足感や達成感を抱くことができたことがうかがえる。今後もこのような学習をスパイラルに積み重ねていくことで、国語の学習の楽しさを味わわせ、国語の力を付けると共に学び合う集団を育てていきたい。

児童の学習後の振り返り

- ★わたしは、しらべたい虫の本を読んでさっとそのページをひらけるようになりました。目次を見たらささとそのページをひらけるべんきょうをしたから、ささとひらけるようになったのです。もっと本をしらべていろいろできるようになりたいです。それにもっとひみつずかんを作っているいろいろな人にこんな道具をもっている虫のことを知ってほしいです。それで、みんながいろいろな虫のことが分かる虫はかせになってほしいです。
- ★虫は道具をもっているなんて、今まで一回も考えたことがなかったけど、いつも虫を見るたびに考えるようになりました。それにひまつぶしに考えることができるようになりました。
- ★虫は道具をもっているを書いたさわぐちたまみさんはすごいなあと思いました。あんなに虫のことがとてもくわしく書いてあって、とても読みやすかったです。私もあんなにくわしく書いてみんなに教えてあげたいです。
- ★さいしょは目次とかを見ないでやったけど、みんなでべんきょうして目次を見た方が分かりやすいと思いました。これからも、いろいろな虫をしらべて江津の図書館にずかんをおいてもらいたいです。

3. どうやってみをまもるのかな

- (1) 単元名 「とっておきの動物ひみつクイズをつくろう！」
- (2) 単元目標

- 動物についての紹介やクイズを通して、動物の身のまもりかたについて関

心もち、クイズ大会に向けて、興味をもって読もうとしている。

(国語への関心・意欲・態度)

○ 問いと答えの形式や、説明の内容の順序に注意して読んでいる。

(読む能力)

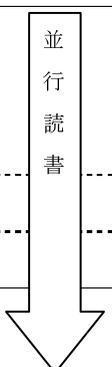
○ 文の中における主語と述語との関係に注意して読んでいる。

(言語についての知識・理解・技能)

(3) 単元について

単元を貫く言語活動として「動物ひみつクイズ大会」をすることを位置づけ、単元構成をした。本単元では、自分の好きな動物についての身のまもりかたの情報を図鑑や本から取り出し、本教材で学んだ「問い」「答え」の形式を生かしてクイズを作る活動を設定する。学校司書と連携し、単元に入る前から「動物」についての図鑑や本を学級文庫に設置したり、読み聞かせを行ったりして動物への関心を高めた。また、情報を取り出す時には、情報カードにまとめるなど、図書館の利・活用についても学習を行った。それぞれが作ったクイズは、「動物ひみつクイズ大会」で交流をした後、学校の図書館に置くことで情報発信を行った。

(4) 単元の学習計画 (全10時間)

次・時	学習活動	指導上の留意点 (*司書教諭・学校司書のかわり)	学習形態・資料等
1次 ①	○「動物ひみつクイズ」を出し、学級でクイズを楽しみ、学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">「動物ひみつクイズ大会」をしよう</div> ○動物ひみつクイズ大会に向けた学習の計画を立てる。	・司書教諭が動物の身の守り方に関する「動物ひみつ」クイズを出し、動物の身の守り方について興味・関心を高める。 *動物の本コーナーを設置するなど動物に対する意識を高めるようにする。	・教師が作成した「動物ひみつクイズ」 ・動物の本コーナー(学級文庫設置) ・読み聞かせ(朝の時間)
2次 ②	○全文を読み、内容の大体をとらえ、問いと答えの形式に気付く。 ○「やまあらし」の部屋を読み取る。	・挿絵を使いながら、「どうやってみをまもるのかな」に出てくる動物を確認する。 ・文末表現「～でしょう」に着目させ、問い(質問)を見つける。 ・その答えも見つける。	・挿絵
③	○「あるまじろ」の部屋を読み取る。	・「やまあらし」の部屋と比べながら読む。	並 行 読 書 
④	○「すかんく」の部屋を読み取る。	・「あるまじろ」の部屋と比べながら読む。	
3次 ⑤	○学習を振り返る。 (できるようになったことのメタ認知)	・学習をして分かったこと(「問い」と「答え」、4つの部屋)をまとめ、教材の書きぶりを真似て「動物ひみつ」	

		クイズを作るという見通しを持つ。	
4次 ⑥	○動物ひみつクイズの作り方を知る。 ○いろいろな動物の本を読む。	・情報カードの書き方を知り、それを使って「動物ひみつクイズ」を作る。 ・情報カードを準備し、動物の身の守り方について書いてある本から情報を抜き出す。	・学校図書館利用 ・司書とのTT ・情報カード
⑦ ⑧	○動物ひみつクイズを作る。	・教材文の問いをもとに、動物ひみつクイズの質問を作る。 ・情報カードをもとに、動物ひみつクイズの答えを作る。	・白画用紙(問い) ・色画用紙(答え)
⑨	○動物ひみつクイズ大会をする。	・全員がクイズの問題を出せるよう時間配分に気をつける。	
⑩	○動物ひみつクイズ大会の振り返りをする。	・友達のクイズでよかったこと、初めて知ったことを振り返る。	・ワークシート

(5) 学習指導の実際

ア. 学習過程の明確化

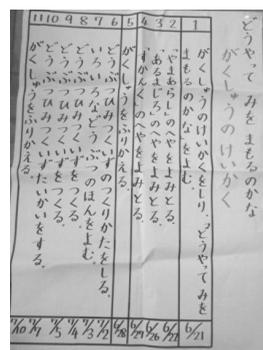
「どうやってみをまもるのかな」は、1年生の入門期である6月頃に初めて登場する説明文教材である。そのため、1年生にとって興味・関心を持ちやすい動物が扱われており、「どのようにしてみをまもるのでしょうか」という問いと、「○○は、～にして、みをまもります」という答えの構成からなっている。また、動物の写真も掲載されており、文と結び付けて考えることで理解の助けとなる。このような、説明文教材を1年生に目的をもって読ませたいと考え、本単元では「とっておきの動物ひみつクイズ」作りを単元を貫く言語活動に設定した。本単元では、以下のような取組を行った。

<つかむ>

本単元に入ってから、児童が見通しをもって学習することができるように、学習計画を立て、児童がいつでも確認できる場所に掲示した。

<読みとる・伝え合う>

教材文を「読み取る」段階では、「問い」と「答え」が繰り返し出てきていることから、「問い」の文に赤色のサイドライン、「答え」の文に青色のサイドラインを引かせたことで、「問い」と「答え」の構成をつかませた。この関係を読み取ることが、クイズを作る時に生きてくると考えたからである。また、「やまあらし」「あるまじろ」「すかんく」の身の守り方を比べながら読むことで、動物の身の守り方の違いにも目を向けることができるようにした。このようにすること



【教室に掲示した学習計画】

で、教科書には登場していない動物の身の守り方にも自然に目が向くようにした。

<生かす>

「問い」と「答え」の関係をクイズ作りに生かし、「動物ひみつクイズ」を情報カードを活用しながら一人一人が作成した。1年生が作った動物ひみつクイズは、まず1年教室で「とっておきの動物ひみつクイズ大会」を行い、クイズ交流をした。1年生は、幼稚園児や上級生にクイズを出したいという願いをもっており、幼稚園児との交流会や全校集会などで「とっておきの動物ひみつクイズ大会」の場を設定した。



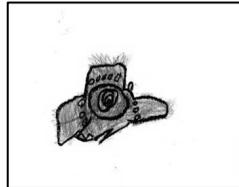
【動物ひみつクイズ大会の様子】

【問い】

【答え】



これは、やどかりです。どのようにしてみまもるのでしょうか。



やどかりはてきがかるとすぐにかいがらにひっこんでみまもります。こわがりやさんです。



これは、みつばちです。どのようにしてみまもるのでしょうか。



みつばちは、てきがおそってくるとするどいどくばりをだしてみまもります。このどくばりは、かんたんにはぬけず、さいごにみつばちのからだからちぎれます。すると、とくべつなにおいがでてきます。

上記は、1年生の児童が作った「動物ひみつクイズ」である。1枚目の画用紙の表と裏に「問い」の文と絵をかき、2枚目の色の違う画用紙の表と裏に「答え」の文と絵をかいて、完成させた。クイズ大会では、紙芝居のように1枚ずつ見せることで「問い」と「答え」を意識させた。

イ. 情報カードの活用

「とっておきの動物ひみつクイズ」を作成する方法として、一人一人が自分の好きな動物や生き物について並行読書をし、その中から動物の身の守り方について情報を取り出し「情報カード」に記入した。「情報カード」に必要な情報を取り出す際は、学校司書とTT指導を行い、個別支援を行った。なお「情報カード」の書き方については、1年生で初めて取り上げ、学校司書と連携を図りながら全体指導をした後、個別支援の時間を設けた。1年生の入門期であるため、「情報カード」については、「本の題名」「作者」「出版社」のみを記入できるようにした。そして、本から取り出した必要な情報のみを「情報カード」に書き写すようにした。

ほんの だいたい	ヤとがり
さくしゃ	やくのじゅんじ
しゅつぱんしゃ	しゅうえいしゃ

【情報カード】

ほんの だいたい	みつばち
さくしゃ	ななお じゅん
しゅつぱんしゃ	てくど しゃ

ほんの だいたい	
さくしゃ	
しゅつぱんしゃ	

(6) 実践を振り返って

- 単元を貫く言語活動として「とっておきの動物ひみつクイズ」を作ること
を位置づけたことは、目的をもって教材を読むことにつながった。
- 図書館で情報カードの書き方や使い方を学習した後、図鑑や本を読んで情報
を取り出し、情報カードに記入したことは、図書館の利・活用の推進を
図る上で効果的だった。
- 図鑑や本から情報を取り出す視点は「動物の身の守りかた」であり、1年
生にとっても理解しやすいものであった。しかし、学校司書とのTT指導
をしていても読みの力が低い児童には情報カードの記入時には支援が必要
であった。

児童の学習後の振り返り

★しらなかつたどうぶつもいて、知っているどうぶつもいて、たのしかったです。でも、わたしはみのまもりかたはしらなかつたです。だから、しらなかつたみのまもりかたをやってよかつたです。

★どうぶつひみつクイズをさいしょはできるかなつておもつたけどやってみたら、おもしろかつたよ。

IV. おわりに

これらの実践を通して、次のようなことが大事であると考えた。

① 言語活動を行う相手や目的の意識化

単元を通して言語活動を位置づけたことで、言語活動を行う相手や目的の意識化を継続的に図ることができた。言語活動を何のために、誰に向けて行うかを子ども達にはっきり意識させていくことで、課題解決がすすんでいった。

② 読書活動へ連続する言語活動

「図鑑作り」「クイズ作り」等の言語活動を充実したものにするには、図書館の利活用は欠かせない。言語活動の途中や事後に読書活動へと連続させることが学習を広げたり深めたりすることにつながっていった。

③ 学習の振り返りによるメタ認知化

学習を振り返る視点に「自分の成長」「学習の成果」を入れることで、子ども自身が身に付いた力を自覚（実感したり、認識をもったりする）できることをねらつた。学習を通してどんなことができるようになったのかをメタ認知できると、それは次に使える力や使おうとする意欲になってくると考えたからである。1年生という発達段階では、「自分の成長」「学習の成果」についてのメタ認知は、難しかった。

今後も、国語科でばらばらの言語活動を位置づけるのではなく、水戸部氏が提案している国語科授業づくりの3つのポイントを意識しながら、授業づくりをしていきたいと考える。そして、単元を貫く言語活動を位置づけることができるように、単元構想時に意識し、言語活動の充実を図る取組を行っていきたい。

なお、本稿は、2012年8月4日に行われた第30回島根大学教育学部国文学会研究発表会におけるフォーラム「私の国語教室」における実践発表をもとにまとめたものである。「いろいろなふね」の授業の際には橋本祐治校長先生、「虫は道具をもっている」の授業では遠山茂樹指導主事、実践発表では島根大学教育学部教授足立悦男先生よりご指導、ご助言をいただいた。今回、このような場を提供して下さつた足立悦男先生をはじめ、島根大学教育学部国文学会の皆様がこの場を借りて厚く

御礼申し上げます。ありがとうございました。

(鳥取市立宝木小学校教諭)

ⁱ H20年中央教育審議会答申

ⁱⁱ 水戸部修治編著『小学校国語科 言語活動パーフェクトガイド1・2年』明治図書、2011

参考文献

- ・文科省『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版、2008
- ・文科省『言語活動の充実に関する指導事例』2010
- ・文科省『初等教育資料』東洋館出版社、2011
- ・文科省『読解力向上に関する指導資料～PISA調査（読解力）の結果分析と改善の方向』東洋館出版社、2006
- ・水戸部修治編著『国語授業の新常識「読むこと」低学年編』明治図書、2011
- ・水戸部修治編著『小学校学習指導要領の授業 国語科実践事例集』小学館、2011
- ・『江津市教育研究大会紀要』江津市教育研究大会実行委員会、2010
- ・『第30回島根県国語教育研究大会（江津大会）大会要項』島根県国語教育研究大会江津大会実行委員会、2011
- ・『江津の教育 研究紀要NO. 51』江津市教育研究会、2010
- ・『江津の教育 研究紀要NO. 52』江津市教育研究会、2012
- ・『平成22年度 研究のまとめ』江津市立郷田小学校、2010
- ・『平成23年度 研究のまとめ』江津市立郷田小学校、2011